

日本・フィンランド外交関係樹立 100 周年記念

フィンランド陶芸

— 芸術家たちのユートピア

2018(平成 30)年 7 月 14 日(土)～ 9 月 6 日(木) 目黒区美術館

午前 10 時～午後 6 時(入館は午後 5 時 30 分まで)

月曜休館、ただし 7 月 16 日(月・祝)は開館し、翌 7 月 17 日(火)は休館

一般 800(600) 円、高大生・65 歳以上 600(500) 円、小中生 無料

*障がいのある方は半額・その付添者 1 名は無料、() 内は 20 名以上の団体料金

*目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示いただくと団体料金になります(他の割引と併用はできません)

主 催 公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館

特別協力 コレクション・カッコネン

協 力 有限会社スコープ、アラビア、イッタラ

協 賛 大日本印刷、フィンエアー、フィンエアーカーゴ

後 援 フィンランド大使館、フィンランドセンター

企画協力 S2 株式会社



アラビア製陶所美術部門 (1945 年) photo: Arabia

概要

日本とフィンランドの外交関係樹立 100 周年を記念し、「フィンランド陶芸—芸術家たちのユートピア」を開催いたします。

これまで日本では、おもにフィンランドのプロダクト・デザインが紹介され、作家による芸術作品については十分に取り上げられてきませんでした。本展は、フィンランド陶芸の体系的な展示を日本で初めて試み、その黎明期から、最盛期ともいえる 1950 年代・60 年代までを名作と共に辿ります。

19 世紀末に流入したアーツ・アンド・クラフツ運動の影響を大きく受けたフィンランドの美術・工芸は、1900 年のパリ万国博覧会で高く評価され、世界的な注目を集めました。この成功は、当時ロシアからの独立を目指していた民衆に誇りと自信を抱かせ、建国の原動力ともなりました。また、フィンランド陶芸の萌芽もここに 있습니다。そして、1930 年代後半から始まるフィンランド陶芸の躍進の下地となったのは、美術工芸中央学校における陶芸家育成と国を代表するアラビア製陶所美術部門の活動でした。この美術部門では、作家たちによる自由な創作が許されており、ユートピアともいえる環境から数々の傑作が生まれていくこととなります。国を挙げて芸術、文化の振興に取り組んだ結果、フィンランド陶芸は 20 世紀中期には世界的な潮流を生み出すまでに成長します。その既成概念にとらわれない豊かな表現は、人々を魅了し、日本の工芸界にも大きな影響を与えました。

本展は、フィンランド陶磁器やガラス作品の世界的コレクターであるキュオスティ・カッコネン氏のコレクションを中心に、「フィンランド陶芸の萌芽」「近隣諸国の影響を受けて」「フィンランド陶芸の確立」「フィンランド陶芸の展開」「プロダクト・デザイン」の 5 章によって構成します。知られざるフィンランド陶芸の世界との出会いは、その源泉に触れ、そして奥深さを知る、またとない機会になるでしょう。

展示構成

1. フィンランド陶芸の萌芽—ナショナル・ロマンティズム

19世紀末にフィンランドにもたらされたアーツ・アンド・クラフツ運動の影響による伝統への回帰や、ロシアからの独立の気運も相まって、当時世界を席捲していたアール・ヌーヴォーは、同国内においてナショナル・ロマンティズム(民族的ロマン主義)と称され、独自の発展を遂げることとなりました。そして1900年のパリ万国博覧会において国際的な評価を受けたことが、さらなるナショナリズムの高揚と国内の手工業分野の発展を促しました。本章では、この時期に創業したアイリス工房やアラビア製陶所で製作された、壺や花器などを紹介します。

2. 近隣諸国の影響を受けて—アール・デコ

1920年代には、近隣諸国の影響を受けてきた陶磁器のデザイン性を高めようという動きが生じ、そして1930年代後半になると、フィンランド陶芸が躍進を見せます。この下地となったのは、ヘルシンキにあった美術工芸中央学校での陶芸家育成と、国を代表するアラビア製陶所・美術部門の活動でした。後者では作家たちに自由な制作の場が与えられ、まさにユートピアといえる環境から、数々の傑作が生み出されていきました。本章では、テューラ・ルンドグレンやミハエル・シルキンらによる陶彫を中心に紹介します。

3. フィンランド陶芸の確立—オーガニック・モダニズム

第二次大戦後、フィンランド陶芸は国内に留まらず、ミラノ・トリエンナーレなどの国際展において、世界的に評価されるようになりました。本章では、オーガニック・モダニズムと称された伸びやかで有機的な形態が特徴的なトイニ・ムオナの筒花瓶や、立体造形として陶芸を追求したキュッリッキ・サルメンハーラの壺などを紹介します。

4. フィンランド陶芸の展開—ピクトリアリズム

フィンランド陶芸を牽引した作家の中には、陶芸の概念を塗り替える作家も現れました。本章では、ビルゲル・カイピアイネンおよびルート・ブリュックらの作品を通して、伝統的な陶板画とは一線を画した、詩情豊かな絵画的表現(ピクトリアリズム)の陶板や皿を紹介します。

5. プロダクト・デザイン—フィンランドと日本

おもにアラビア製陶所で生産されたフィンランドの日用品には、隣国スウェーデンの影響が色濃くありました。しかし第二次大戦後、新たなデザインが求められると、同国に做った機能主義に加えて、日本の美術や工芸にも影響を受けた製品が国内外で人気を博しました。本章では、日本でも人気の高いカイ・フランクらの食器セットなどを紹介します。

【出品数】

陶磁器、ガラス、ポスターなど 137点

関連催事

■特別講演会

「フィンランドという国と人、その生活とデザイン」

日時：7月22日(日) 14:00-16:00

講師：島崎 信(武蔵野美術大学名誉教授／

日本フィンランドデザイン協会理事長)

■講演会

「フィンランドのアラビア窯—カイ・フランクと芸術家たち」

日時：7月14日(土) 14:00-15:30

講師：山口敦子(岐阜県現代陶芸美術館学芸員)

*各回とも定員70名(先着順・席に限りがあります)、聴講無料(ただし、高校生以上の入場には展覧会観覧券が必要)。

*その他、展覧会についてお話しする「大人のための美術カフェ」などの開催を予定しています。詳細は、当館ウェブサイトをご覧ください。

展覧会図録

本展開催に合わせ、下記図録を、当館1階ミュージアムショップにて販売いたします(全国主要書店でも取り扱っています)。

『フィンランド陶芸—芸術家たちのユートピア』

監修 ハッリ・カルハ(美術史家)

企画・構成 山口敦子(岐阜県現代陶芸美術館)

A4変型判 260頁 ISBN 978-4-336-06268-0

定価 2,484円(本体価格2,300円)

開催情報

タイトル	日本・フィンランド外交関係樹立 100 周年記念 フィンランド陶芸—芸術家たちのユートピア
会 期	2018 年 7 月 14 日(土)–9 月 6 日(木)
会 場	目黒区美術館 (東京都目黒区目黒 2-4-36)
開館時間	午前 10 時–午後 6 時 (入館は午後 5 時 30 分まで)
休 館 日	月曜日 ※ただし 7 月 17 日(月・祝)は開館し、翌 7 月 18 日(火)は休館
観 覧 料	一般 800(600)円、高大生・65 歳以上 600(500)円、小中生以下無料 *障がいのある方は半額・その付添者 1 名は無料、()内は 20 名以上の団体料金 *目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示いただくと団体料金になります(他の割引と併用はできません)
主 催	公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館
特別協力	コレクション・カッコネン
協 力	有限会社スコープ、アラビア、イッタラ
協 賛	大日本印刷、フィンエアー、フィンエアーカーゴ
後 援	フィンランド大使館、フィンランドセンター
企画協力	S2 株式会社
交通機関	JR 山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線＝目黒駅下車徒歩 10 分 東急バス＝権之助坂(目黒通り)下車徒歩 5 分、田道小学校入口(山手通り)下車徒歩 3 分

本展巡回会場

茨城県陶芸美術館 2018 年 4 月 21 日(土)–7 月 1 日(日) *開催中
 岐阜県現代陶芸美術館 2018 年 11 月 17 日(土)–2019 年 2 月 17 日(日)
 山口県立萩美術館・浦上記念館 2019 年 4 月 20 日(土)–6 月 30 日(日)
 大阪市立東洋陶磁美術館 2019 年 7 月 13 日(土)–10 月 14 日(日)

広報写真

図版については、本リリースに掲載する「アラビア製陶所美術部門(1945 年)」のほか、ウェブサイトでの本展紹介ページに掲載している 7 点も広報用写真として提供可能です。ただし 3. と 6. に関しては、使用に関する諸条件があります。広報用画像をご希望の方は、担当者までお問合せください。こちらから折り返しご連絡いたします。

本展の問い合わせ先

目黒区美術館 展覧会担当(学芸) 加藤 / 広報担当(事務) 竹森
 〒153-0063 東京都目黒区目黒 2-4-36 tel. 03-3714-1201(代) fax. 03-3715-9328(代)
 e-mail: mmatoffice@mmat.jp http://www.mmat.jp